津幡町

加賀爪B遺跡

2017

石川県教育委員会

(公財)石川県埋蔵文化財センター

加賀爪（かがつめ）Ｂ遺跡

２０１７

石　川　県　教　育　委　員　会

（公財）石川県埋蔵文化財センター

調査区遠景（東から　赤枠が調査区）

調査区全景（上が北）

例　　言

1　本書は加賀爪B遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地は石川県河北郡津幡町加賀爪地内である。

3　調査原因は地方道改築事業一般県道莇谷津幡線であり、同事業を所管する石川県県央土木総合事務所(石川県土木部道路建設課)が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。

4　調査は公益財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成27(2015)～28(2016)年度に実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。

5　調査にかかる費用は、石川県土木部道路建設課が負担した。

6　現地調査は平成27年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。

期　間　　平成27年5月22日～平成27年7月23日
面　積　　460㎡
担　当　　調査部県関係調査グループ
担当者　　熊谷葉月(主幹)、瀧野勝利(専門員)

7　出土品整理は平成28年度に実施し、調査部国関係調査グループ・県関係調査グループ・特定事業関係調査グループが担当した。

8　報告書の作成・編集・刊行は平成28年度に実施し、調査部県関係調査グループが担当した。執筆・編集は熊谷葉月(主幹)が行った。

9　調査には下記の機関の協力を得た。
石川県土木部道路建設課、石川県県央土木総合事務所、津幡町教育委員会

10　調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。

11　本書についての凡例は下記のとおりである。

(1)　方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系(世界測地系：測地成果2000)に準拠した。

(2)　水平基準は海抜高であり、T.P.(東京湾平均海面標高)による。

(3)　出土遺物番号は挿図と写真で対応する。

(4)　遺物実測図については、須恵器は断面黒塗り、その他は白抜きとし、弥生土器・土師器の赤彩処理は薄い網掛け、内黒処理は濃い網掛けでその範囲を示した。

目　　次

第１章　調査の経緯と経過 …… 1

第１節　調査に至る経緯 …… 1

第２節　調 査 の 経 過 …… 1

第３節　整理等作業の経過 …… 2

第２章　遺跡の位置と環境 …… 3

第１節　地 理 的 環 境 …… 3

第２節　歴 史 的 環 境 …… 3

第３章　調 査 の 成 果 …… 6

第１節　調 査 概 要 …… 6

第２節　遺　　構（SD1） …… 6

第３節　出 土 遺 物 …… 7

第４節　小　　結 …… 8

挿 図 目 次

第１図　調査区配置図 …… 2

第２図　遺跡の位置 …… 3

第３図　周辺遺跡分布図 …… 4

第４図　調査区平面図 …… 9

第５図　遺構図 …… 10

第６図　北壁（西側）土層図 …… 10

第７図　北壁（東側）土層図 …… 11

第８図　南壁土層図 …… 11

第９図　SD1北アゼ土層図 …… 12

第10図　SD1南アゼ土層図 …… 12

第11～16図　SD1出土土器 …… 13～17

第17図　SD1出土椀形滓・鞴羽口・砥石 …… 19

表　目　次

第１表　周辺の遺跡 …… 5

第２表　SD1土器観察表 …… 20

第３表　SD1鉄滓観察表 …… 22

第４表　SD1鞴羽口観察表 …… 22

第５表　SD1砥石観察表 …… 22

第６表　SD1鉄滓計測表 …… 22

図 版 目 次

巻頭図版（調査区遠景　調査区全景）

写真図版１　SD1完掘状況（北から　北東から）

写真図版２　SD1北アゼ　南アゼ

写真図版３　SD1土器出土状況ほか

写真図版４～８　SD1出土遺物

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

本発掘調査は、石川県土木部道路建築課・県央土木総合事務所が所管する地方道改良事業 一般県道 莇谷津幡線に伴うものである。平成26年２月に石川県教育委員会文化財課が分布調査を行い、調査範囲を確定した。平成27年３月20日付けで文化財保護法第94条に基づく発掘通知が県教委宛に提出され、県教委に調査を委託された公益財団法人石川県埋蔵文化財センターは、平成27年５月15日付けで発掘調査届を提出し、同年５月22日に調査に着手した。

なお、当初、所在地を津幡町杉瀬地内、遺跡名を杉瀬ニシウラＢ遺跡としていたが、調査着手時、調査区に当る箇所は津幡町加賀爪地内と判明し、平成28年度末に加賀爪Ｂ遺跡と変更した。

第２節　調 査 の 経 過

平成27年５月12日に県央土木総合事務所、文化財課、埋文センターで現地確認を行い、５月22日に調査区隣接の民家出入口および調査区内を通る水道管の切り回しのための掘削作業から着手し、調査区の表土除去作業は６月２日から行った。調査区東半は昭和21年の米軍航空写真などにも見られる旧津幡川流路と推測されており、その西岸を確認した。調査区西半は弥生土器等の遺物が出土する南北方向の河川跡を検出した。６月４日から遺構検出・掘削作業を開始した。北側で検出面より深さ1.8mとなり、当初見込みより掘削量が多くなったため予定より２週間程度遅れが生じた。また６月19日には津幡町長および町議会議員、区長等から成る津幡町道路建設期成同盟会の視察があった。７月９日にラジオコントロールヘリコプターによる空中写真測量を実施した。

調査日誌（抄）

５月12日	現地確認・打ち合わせ	６月19日	津幡町道路建設期成同盟会視察
５月22日	調査着手（民家出入口造成等）	７月９日	空中写真測量撮影
６月２日	表土除去作業（～４日）	７月13日	埋め戻し作業（～14日）
６月４日	作業員による掘削開始・遺構検出作業	７月17日	終了確認　引き渡し
６月８日	遺構検出状況撮影　遺構掘削開始	７月23日	撤収終了

調査体制

調査主体	公益財団法人石川県埋蔵文化財センター（理事長　木下公司）
総　　括	柴田政秋（専務理事）
事　　務	釜親利雄（事務局長）
総　　務	長嶋　誠（総務グループリーダー）
調　　査	福島正実（所長）
	藤田邦雄（調査部長）
担　　当	松山和彦（県関係調査グループリーダー）
	熊谷葉月（県関係調査グループ主幹）
	瀧野勝利（県関係調査グループ専門員）

第３節　整理等作業の経過

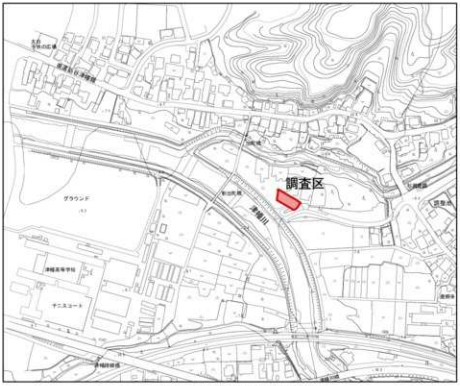
整理発掘調査にかかる出土品整理作業は事業者と県教委の協議により平成28年度に実施することとなり、作業を県埋文センターが行った。県埋文センターでの整理内容、整理体制は下記のとおりである。

整理内容

出土遺物の記名・分類・接合、実測、トレース、遺構図トレース

整理体制

調査主体　公益財団法人石川県埋蔵文化財センター（理事長　田中新太郎）
総　　括　柴田政秋（専務理事）
事　　務　釜親利雄（事務局長）
総　　務　長嶋　誠（総務グループリーダー）
調　　査　福島正実（所長）
　　藤田邦雄（調査部長）
担　　当　国関係調査グループ　県関係調査グループ　特定事業調査グループ



第１図　調査区配置図（S 1/5,000）

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地 理 的 環 境

第２図　遺跡の位置

本遺跡は津幡町南部の加賀爪地内に所在する。石川県は南北に長く、津幡町はその中央に位置しており、東側の丘陵部と西側の平野部に大きくは分けられる。東の丘陵に源流のある津幡川とその支流が沖積平野を形成し、河北潟、日本海へと流れる。また、河北潟の水面は古代以前には丘陵部裾近くまで及んでいたと推定されている。

本遺跡は、津幡丘陵の裾部から150ｍ南、津幡川とその支流である倉見川の分岐地点に近く、両河川に挟まれた微高地上に立地している。南から西にかけて沖積低地である河北平野が広がる。津幡川をはじめとする周辺の河川は、古くより水運としても利用されていた。また遺跡の北側には、加賀から越中へ抜ける、かつての北国街道が残り、陸路でも交通の要衝であった。

昭和30年代までの津幡川は、町の中心部の南側を蛇行し、西の平野部では直線的になっていた。昭和39年の大水害を契機として、改修工事が計画され、川幅を広げ、流路を直線化し、昭和44年に完成している。本調査の東半でも、この時に埋め立てられたとみられる旧流路が検出されている。

第２節　歴 史 的 環 境

本遺跡周辺５km程度に広がる遺跡を概観する。縄文時代においては加茂遺跡(30)で晩期の河道跡と木組み遺構が確認されている。北中条遺跡(25)では後期～晩期の土器や石器が多く出土している。

弥生時代前期から中期にかけての遺跡が比較的少ない。加茂遺跡の下層で、弥生時代中期の存在が確認されている。弥生時代後期からは遺跡数がかなり増え、集落では、中期の水田跡が検出された加茂遺跡のほか、本遺跡に比較的近いところでは、高地性集落で竪穴建物１棟が検出された杉瀬五月天窪の山遺跡(33)、竪穴建物４棟が検出された七野ムカイヤマ遺跡(17)、竹橋油木谷遺跡(15)など小規模な集落遺跡があげられる。墳墓では、四隅突出墓や台状墓10基が検出された、七野墳墓群(18)、玉類、鉄刀などを持つ５基の集団墓が検出された東荒屋ナカサイ遺跡(32)、があり、北中条遺跡では、大型の竪穴建物や掘立柱建物群のほか、方形周溝墓群や珠文鏡、玉類も出土している。

古墳時代では、方墳２基からなる太白台古墳群(4)、円墳２基からなる浅田古墳群(22)などがある。

七野墳墓群の報告(2010)の中で、弥生時代後期後半～終末期の町内遺跡を①町中央から南部の平坦部で河北潟東岸の拠点集落（北中条遺跡、加賀爪遺跡(3)ほか）、②町北部の丘陵部から平坦部にかけての転換部の集落（加茂遺跡ほか）、③町東部の山間部で、倶利伽羅峠越えルート脇の小規模な高地性集落（七野墳墓群、東荒屋ナカザイ遺跡ほか）に分類している。

奈良・平安時代には公的な様相の見られる大規模な遺跡が町北部の加茂遺跡と南西の平野部を中心

第３図　周辺遺跡分布図（S＝1/20,000）

に展開する。加茂遺跡は、日本最古の御触書として重要文化財となった「加賀郡牓示札」が出土し、８世紀代から９世紀にかけて、大型建物群が水運として利用された大溝を持つ大規模遺跡である。また墨書土器「鴨寺」や瓦が出土し、寺院の存在が明らかになっている。北中条遺跡では墨書土器「深見驛」のほか、木簡、多数の墨書土器が出土した。小規模な遺跡では、倉見オウラント遺跡（12、13）や竹橋油木谷遺跡などで調査例がある。

中近世では概要の判明している遺跡は少ない。清水遺跡⑻は近年の調査で、源平合戦で木曽義仲軍に加わった津波田氏の居館であった可能性が指摘されている。津幡城跡⑺は、倶利伽羅峠の戦では、平家の陣が、戦国時代には能登侵攻で上杉の陣が、その後は越中への備えとして前田利家が城を置いたといわれている。

本遺跡に隣接する遺跡として、古代・中世の杉瀬ニシウラ遺跡⑵がある。未調査のため概要は不

	県番号	遺　跡　名	現　状	種　別	時　代	発掘調査等履歴	備　　考
1	1311900	加賀爪B遺跡	畑地	集落	弥生、古代、中世		本報告
2	1311200	杉瀬ニシウラ遺跡	畑地	集落	古代、中世		
3	1300600	加賀爪遺跡	校地	散布地	古墳		校庭建設工事で一部損壊。
4	1302400	太白台古墳群	山林	古墳	古墳		方墳2基よりなる。 1号墳逆8m高1.5m、 2号墳逆7m×高0.5m。
5	1302500	津幡遺跡	山林、社地	散布地	古墳		
6	1302600	津幡スワヤマ遺跡	畑地	散布地	古墳		
7	1302700	津幡城跡	校地	城跡	中世、近世		町指定史跡。旧津幡小学校校地。
8	1311300	清水遺跡	宅地、水田	集落	弥生、中世	2012年度町発掘	
9	1311100	杉瀬八幡神社遺跡	山林、社地	散布地	弥生		尾根上に屋状の高まりあり（6m四方）。
10	1302300	提塚	道路	塚	近世	1984年度町発掘	径4m、高さ1.1m。
11	1305300	食見トウノワキ遺跡	宅地、水田、社地	散布地	縄文、古墳、中世		
12	1311001	食見オウラント遺跡	山林、道路	集落	縄文、弥生、平安	1998・99年度県（財埋）発掘	2ケ所に分かれる。
13	1311002	食見オウラント遺跡	山林、道路	集落	縄文、弥生、古墳	1998・99年度県（財埋）発掘	2ケ所に分かれる。
14	1301800	竹橋サインシザカ遺跡	山林	散布地	弥生、古代		
15	1301900	竹橋油木谷遺跡	山林	散布地	縄文、弥生、古代	1984年度町発掘	
16	1302200	東荒屋カンジャワラ遺跡	水田、畑地	散布地	古代		
17	1301600	七野ムカイヤマ遺跡	山林	散布地	弥生、古墳	1990年度町発掘	
18	1301700	七野墳墓群	山林	墳墓	弥生	1992～97年度町発掘	台状墓10基、四隅突出墓1基（2号）、2～4号墓は町指定史跡。
19	1302000	東荒屋遺跡	水田	散布地	縄文、古墳、古代		磨製石斧、甕、杯出土
20	1302100	旭山ボッコリ塚	山林	経塚	不詳		径7～8m、高さ1.5m。
22	1300500	浅田古墳群	山林	古墳	古墳		円墳2基よりなる。 1号墳・2号墳とも径10m高1.5m。
23	1302800	庄住吉神社遺跡	山林	散布地	弥生		
24	1302900	五月田遺跡	水田	散布地	古代、中世		土師器、須恵器、珠洲焼
25	1304200	北中条遺跡	宅地	集落	縄文、弥生、古墳、古代	2000～05年度町発掘	
26	1310500	北中条タカテラ遺跡	宅地	散布地	中世	2011年度試掘。	
27	1300300	南中条遺跡	宅地	散布地	縄文、古墳		打製石斧は単独出土。
28	1300400	南中条横穴	社地	横穴墓	古墳		板石で入口を覆う。
29	1300200	太田遺跡	宅地	散布地	古墳		
30	1303000	加茂遺跡	水田、道路	集落、寺院跡	弥生、古墳、古代、中世	1991～94年度県（埋保）、99～2011年度県（財埋）発掘、58・72・2001～11町確認調査	加茂廃寺遺跡を含む。
31	1303400	加茂明神遺跡	山林	散布地	古墳		古墳の可能性もあり。
32	1311500	東荒屋ナカサイ遺跡	山林	墳墓	弥生	1994-1995年度町発掘	鉄剣・管玉・弥生土器出土
33	1311600	杉瀬五月天窪の山遺跡	山林	集落跡	弥生	1996年度町発掘	

第１表　周辺の遺跡

明であるが、現況の水田や畑地にも須恵器・珠洲焼片等が散布している。登録されている範囲は隣接しているが、出土遺物の中心となる時代が異なる。1.5km西には、同じく遺物散布地である加賀爪遺跡⑶が旧津幡中学校地内に存在する。

参考文献

津幡町史編纂委員会『津幡町史』1974

津幡町教育委員会『北中条遺跡（Ⅰ区）―北中条地区土地区画整理事業に係る発掘調査報告書―』2007

石川県教育委員会　（財）石川県埋蔵文化財センター『津幡町加茂遺跡Ⅰ』2009

七野古墳発掘調査会『七野墳墓群発掘調査報告書』2010

津幡町教育委員会『加茂遺跡　詳細分布調査（第１～21調査区）発掘調査報告書』2012

第3章　調 査 の 成 果

第1節　調　査　概　要

調査区は北東辺約35m、南西辺約26m、幅約13m、平面形態は台形状で、面積は460㎡である。調査前の現況では、調査区南西角から民家の建つ北西方向に向かって高くなっており、検出面までの高さは、南西角で約0.5m、北東角で1.0m、盛土されており、中に以前あった住宅や車庫の基礎が一部残っていた。また県教委文化財課の分布調査データでは、試掘坑の地点が誤って記載されていたため、表土除去の際、調査区中央部西で、標高7.3m付近を検出面とするところを0.5mほど掘りすぎている。本来、西へ向かって緩やかに下がっていたものと思われる。

調査区東半では、昭和40年代以前の津幡川の旧流路を検出した。分布調査データでは、2m以上下でも地山が検出されておらず、出土遺物も見られないことから、西岸ラインの検出のみとした。

調査区中央部付近で、平面形も底部の形状も不定形な灰白色粘質土の穴を検出し、SX1としたが、出土遺物もなく、人為的な掘削というより水脈などによる地山の変色の可能性が高い。

今回、調査の対象となる遺構として検出されたのは、調査区西側の河道(SD1)のみである。上面では主に中世・古代の遺物、中・下層では主に弥生時代後期の土器が出土した。底面付近の最下層では比較的遺存度の大きなものもあったが、上層から下層は小片で摩耗も著しいものがほとんどで、上流から流れてきたと推測される。

第2節　遺　　構(SD1)

検出面で幅5cm、深さ南側で0.9m、北側で1.4cm、南から北へ貫流する旧河道である。河道底は南から中央まで緩やかで、中央から北で傾斜が急になっている。おそらく調査区の北側に東西方向の大きな河道があり、それに合流する部分である可能性が考えられる。傾斜が急になった北側底面付近では、流木が北方向に落ち込むように堆積していた。

土層観察のためのアゼは中央に2箇所設けた。当初、南アゼのみであったが、全体に30～50cm掘り下げたところで、アゼを挟んで南側と北側で堆積状況にかなりの違いが感じられたためである。南側は黒褐色土に地山質の土がブロック状に入ったり、途中で薄い砂の層が縞状に見られたりするのに対し、北側はかなり深くまで黒褐色土が入り、さらに黒色を帯びるように見えた。底面近くまで掘り下げて判明したことであるが、北側の急傾斜のため、流れが保たれたのに対し、南側は比較的早い段階で、淀み状態になったため、堆積状況が異なったようである。なお、遺物観察表と計測表の地区名は、北アゼより北、北アゼと南アゼの中間、南アゼより南として、北・中・南とした。

検出面から黒色粘質土・黒褐色土の堆積を上層、その下で一部、暗褐色土、淡褐色土などが混じるやや淡い黒褐色土を中層とした。下層は灰色粘質土、さらに最下層は灰色粗砂となる。

上層は黒色粘質土が堆積し、地山由来の淡褐色粘質土10～15cm大のブロックが多く含まれる状況であった。土砂が堆積し、流れの少ない淀みになっていたようである。遺物は川の流れで攪拌されたため、岸付近の下層からも、時代の下る土器が少し出土しているが、おおむね上面や上層からは珠洲焼、古代の須恵器片が少量出土したほか、鉄滓が総重量25.9kg出土している。中・下層からは弥生時

代後期後半～終末期の土器が多く出土している。またごくわずかであるが、縄文土器片も出土している。

第3節 出 土 遺 物

ほぼ全てがSD1からで、コンテナケース（内法54cm×34cm×20cm）で土器が10箱、鉄滓が3箱であった。図化したのは137点で、1～7が中世の陶器・土師器、8～16が古代の土器、17が古墳時代の須恵器、18～20が縄文土器片、21～128が弥生土器、129～135が椀形滓と羽口、136、137が砥石である。

1～4は珠洲焼である。2は鉢で内面下部に沈線のような、おろし目状の調整が横方向に施される。5～7は土師器皿である。13世紀前半に属するものである。

8は土師器の鍋である。底部外面に静止糸切痕が残る。9は内面黒色の土師器椀の底部である。10～17は須恵器である。10は瓶類の底部である。11～16は8世紀後半から9世紀前半に属する。17は杯蓋と思われるが、6世紀後半～7世紀前半に属するものである。

18～20は縄文土器の小片である。18、19は外面に縄文が残り、20は深鉢の口縁部で外面に爪形文が施される。

弥生土器は21～36が中層、37～50が中～下層、51～84、が下層（黒褐色土、灰褐色土）、85～107が最下層（青灰砂）、108～128が層位なしである。弥生時代終末期の月影式土器の特徴が見られるものが多く、弥生時代後期後半の法仏式土器も少し見られる。

甕は擬凹線が施される有段口縁を持つものが多い。壺は同じく有段口縁を持つもののほか、長頸壺の頸部や胴部と思われる部位が出土している。

赤彩を施した土器は、壺類（23、26、30、108、113）と小型品（22）、高杯（27）がある。

42は甑、74は装飾器台の受部であるが、小片で摩耗が著しい。いずれも図示した1点のみである。

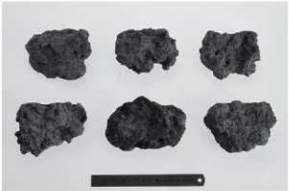
また79の甕口縁部、91、92、124の壺口縁部は法仏期より古い要素が見られる。

106、115は甕形の小型土器である。

129、130は出土した中で大型の椀形滓、131～133は小型のものである。椀形滓は20点ほどがみとめられた。出土した鉄滓の全てを大きさで分類・計測し、（第5表）一部を写真で掲載した。総重量約26kgで、10cm以上（写真①）4.5kg、5cm以上10cm以下（写真②）11.9kg、3cm以上5cm以下（写真③）5.4kg、3cm以下（写真④）4.1kgとなった。

134、135は羽口の破片で、いずれも小片である。注口部付近の外面に気泡の混じった溶着物が付着しており、重量感はあまりない。図化した以外に2点出土している。

136、137は砥石である。いずれも小片で、欠損面以外の面は使用痕が残る。



①鉄滓（10cm以上）

②鉄滓（5cm以上10cm以下）

③鉄滓（3cm以上5cm以下）

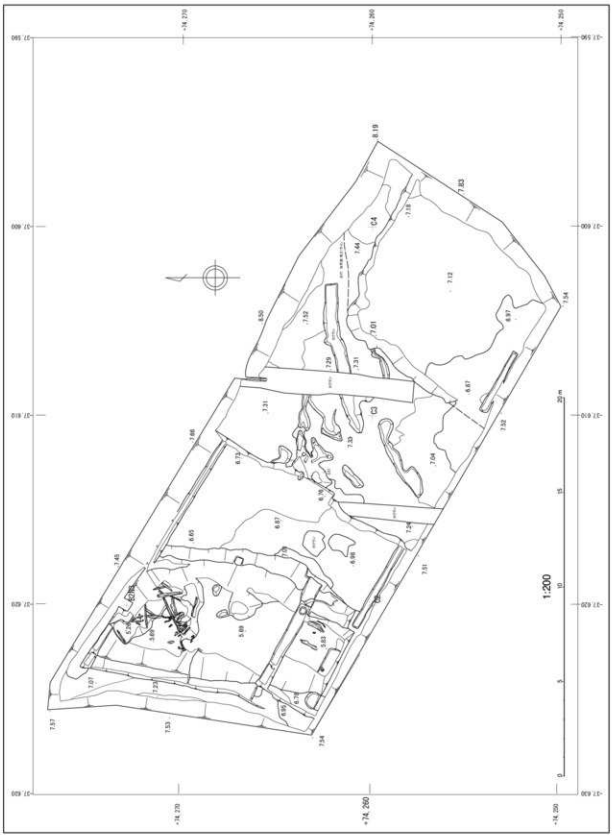
④鉄滓（3cm以下）

第4節　小　　結

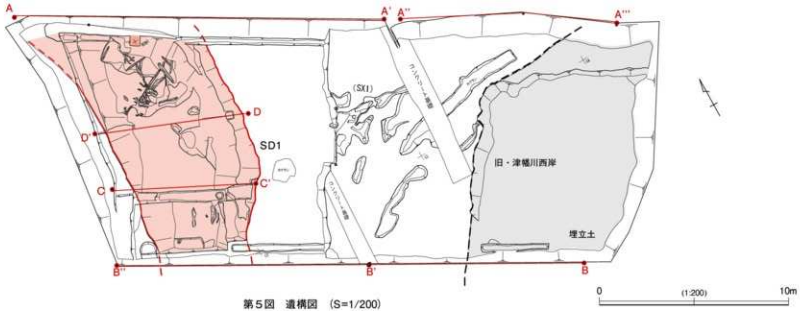
現在でも津幡川支流の倉見川が調査区の40m北側に存在しているが、今回検出したSD1も、北側に近接する本流に流れ込む支流である。調査区内では、SD1と出土土器以外、生活痕跡が見られるような遺構、遺物は検出されなかった。津幡川の流路の変化や河川改修、耕地整理などによる周辺の地盤の造成により、遺構が消滅した可能性も高いが、SD1出土の弥生土器は、摩耗の進んだ小片がほとんどであることから、調査区より南の上流の集落から流れこんだものが多いと思われる。

中・下層の弥生土器は、弥生時代後期～終末期に限定される。最も近い南側の集落遺跡としては、隣接する杉瀬ニシウラ遺跡がある。現況の畑地では、珠洲焼や須恵器の破片が散布しており、未調査である。ただし、弥生時代の遺物は採集されていない。出土量の少なかった奈良・平安時代、中世の土器は関連性が考えられるかもしれない。

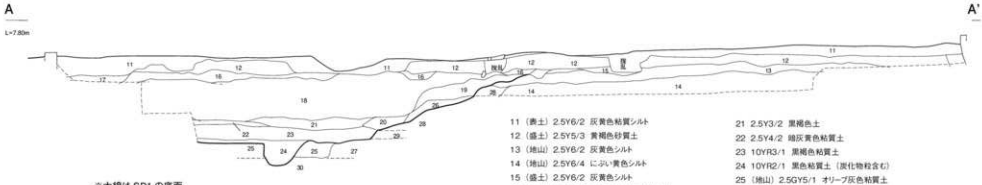
鉄滓や羽口に関しては、一部岸付近では下層として取り上げたものもあるが、ほとんどが上面、上層からの出土である。上流からの流入というより、SD1が淀み状態になった後のものと思われ、近隣で鍛冶など金属加工が行われ、廃棄場所となっていた可能性が考えられる。時期は、確証に欠けるが、特に上面から多く出土していることから、中世の可能性が高いのではないかと思われる。



第4図 調査区平面図(S 1/200)

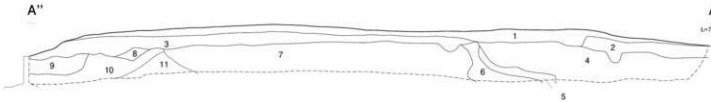


第5図　遺構図　(S=1/200)



第6図　北壁（西側）土層図（S=1/60）

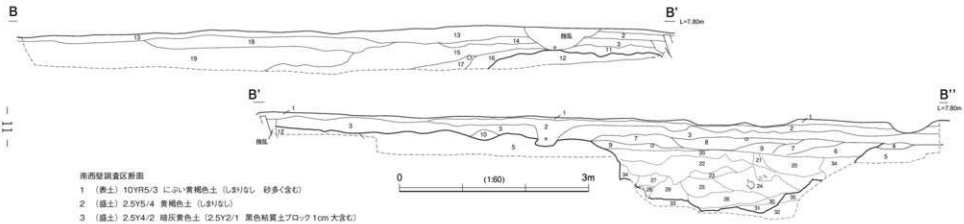
11（表土）2.5Y6/2 灰黄色粘質シルト
12（盛土）2.5Y5/3 黄褐色砂質土
13（地山）2.5Y6/2 灰黄色シルト
14（地山）2.5Y6/4 にぶい黄色シルト
15（盛土）2.5Y6/2 灰黄色シルト
16（盛土）2.5Y7/4 浅黄色土（しまり少ない）
17（盛土）2.5Y4/2 暗灰黄色土
18 10YR3/2 黒褐色土（炭化物粒含む）
19 10YR4/2 灰黄褐色土
20 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土（18 層のブロック多く含む）
21 2.5Y3/2 黒褐色土
22 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土
23 10YR3/1 黒褐色粘質土
24 10YR2/1 黒色粘質土（炭化物粒含む）
25（地山）2.5GY5/1 オリーブ灰色粘質土
26 10YR4/1 褐灰色粘質土
27 7.5Y4/1 灰色粘質土（粗砂多く含む）
28（地山）2.5Y4/2 黄灰色粘質シルト（鉄分沈着　橙褐色に変色）
29（地山）2.5Y6/2 黄灰色粘質土
30（地山）7.5GY5/1 緑灰色粗砂



第７図　北壁（東側）土層図（S=1/60）

北東壁調査区断面

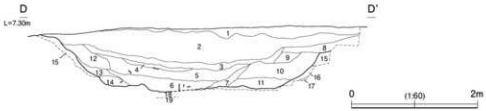
1　（表土）10YR5/6　黄褐色粗砂
2　（盛土）10YR4/4　褐色粗砂
3　（盛土）10YR6/1　褐灰色粘質土
4　（盛土）10YR4/3　にぶい黄褐色土
5　（盛土）10YR6/4　にぶい黄橙色シルト（しまりなし）
6　（盛土）10YR4/4　褐色土
　　（10YR6/1　褐灰色粘土ブロック含む）
7　（盛土）10YR5/8　黄褐色土（しまりなし）
8　10YR4/2　灰黄褐色粘質土（1cm大炭化物少量含む）
9　10YR4/6　褐色シルト（しまりなし）
10（盛土）10YR5/4　にぶい黄褐色シルト（しまりなし）



第８図　南壁土層図（S=1/60）

南西壁調査区断面

1　（表土）10YR5/3　にぶい黄褐色土（しまりなし　砂多く含む）
2　（盛土）2.5Y5/4　黄褐色土（しまりなし）
3　（盛土）2.5Y4/2　暗灰黄色土（2.5Y2/1　黒色粘質土ブロック1cm大含む）
4　2.5Y3/2　暗褐色粘質土
5　（地山）2.5Y6/2　灰黄色シルト（鉄分多く沈着）
6　10YR4/2　灰黄褐色粘質土
7　10YR3/2　黒褐色粘質土
8　10YR3/3　暗褐色粘質土（炭化物粒含む）
9　10YR2/2　黒褐色粘質土
10 2.5Y5/2　暗灰黄色粘土（根跡か　SX01と同質）
11 2.5Y6/2　灰黄色粘質土
12（地山）2.5Y4/6　暗オリーブ褐色粘質土
13（表土）パラス混粗砂
14 2.5Y6/4　にぶい黄色粘質シルト
15 2.5Y6/2　灰黄色粘質土
16 2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土
17 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色粘質土
18 2.5Y5/4　黄褐色土
19 2.5Y4/4　オリーブ褐色土（しまりなし）
20 10YR3/2　黒褐色土
　（10YR4/2　灰黄褐色土ブロック 10YR2/1 黒色粘質土ブロック含む）
21 10YR5/2　灰黄褐色粘質土
22 10YR4/1　褐灰色粘質土（大きな 2.5Y7/2　灰黄色粘土ブロック，
　　大きな 10YR2/1　黒色粘質土ブロック含む）
23 2.5Y5/2　暗灰黄色砂質土
24 2.5Y6/2　灰黄色粘質シルト
25 2.5Y6/2　灰黄色シルト（粗砂含む）
26 2.5Y5/2　暗灰黄色粘質土（1cm大の 2.5Y7/2　灰黄色粘土
　　2.5Y4/1　黄灰色粘土ブロック含む　植物遺体少し含む）
27 2.5Y6/2　灰黄色粘質土
　（1～2cm大の 2.5Y7/2　灰黄色粘土ブロック含む）
28 2.5Y4/2　暗灰黄色砂質土（粗砂多く含む）
29 2.5Y7/2　灰黄色粘土
30 2.5Y5/2　暗灰黄色粘土
31 2.5Y5/1　灰黄色粗砂
32 2.5GY5/1　オリーブ灰色粘質シルト
33 5Y6/2　灰オリーブ色シルト
34 2.5Y6/2　灰黄色シルト
35 2.5Y5/2　灰黄色粘質土

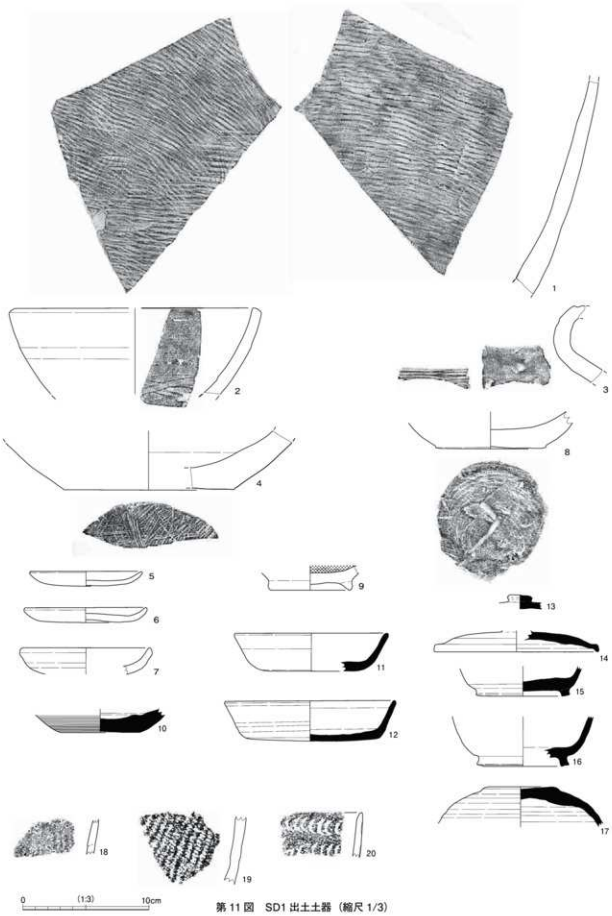


第９図　SD1 北アゼ土層図（S=1/60）

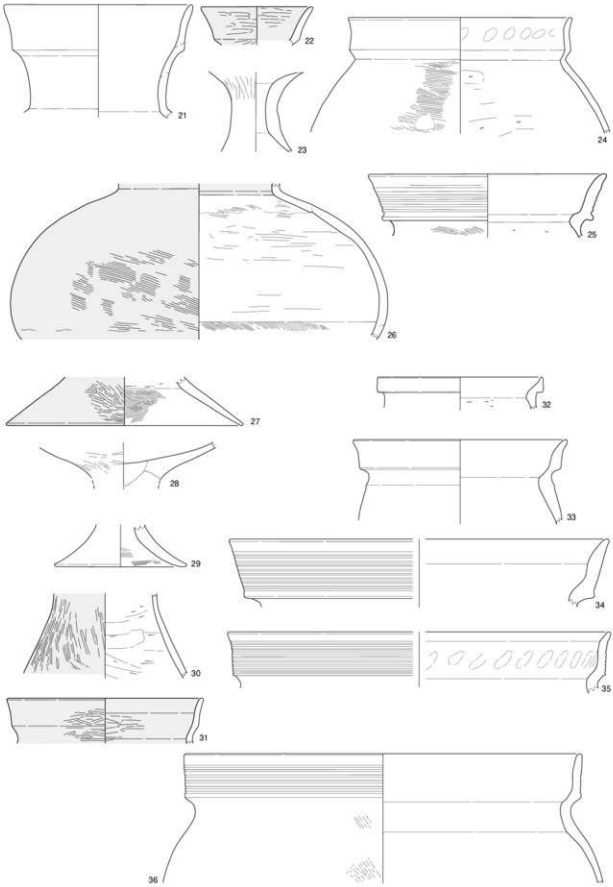
1　2.5Y5/3 にぶい黄色シルト　盛土
2　10YR3/2 黒褐色土（やや粘性あり）土器小片　鉄滓（多）含む　須恵少
3　10YR2/2 黒褐色土（2 層より粘性強い）土器小片　鉄滓含む　須恵少
4　10YR2/2 黒褐色土（2 層より粘性強い　炭化物多く含む）
5　10YR3/1 黒褐色土（2.5Y4/1 黄灰色シルトブロック　2.5Y5/1 黄灰色粗砂多く含む）
6　5Y3/1 オリーブ黒色粘質土（2.5Y5/1 黄灰色粗砂多く含む）
7　2.5Y 黄灰色粗砂（5 層の３～5cm 大ブロック　2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土ブロック２～3cm 大多く含む　鉄分沈着）
8　10YR4/2 灰黄褐色粘質土（粗砂含む）
9　10YR4/1 褐灰色土（粗砂含む　10 層の５～10cm 大のブロック含む）
10 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト（2.5Y3/1 黒褐色土の大きなブロック（5 ～ 15cm 大）含む）
11 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂（鉄分沈着）
12 10YR4/2 灰黄褐色土
13 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト（鉄分沈着多　7.5YR5/6 明橙色に変色）
14 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂（植物腐食土縞状に入る　2.5Y5/1 黄灰色粘土ブロック５～ 10cm 大入る）
15 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト（地山　鉄分沈着著しい　7.5Y3/6 明橙色に変色）
16 2.5Y6/2 灰黄色シルト（地山　鉄分沈着）
17 5GY6/1 オリーブ灰色粗砂（地山）
18 2.5GY6/1 灰色粗砂
19 2.5GY6/1 灰色粘土（地山）

第 10 図　SD1 南アゼ土層図（S=1/60）

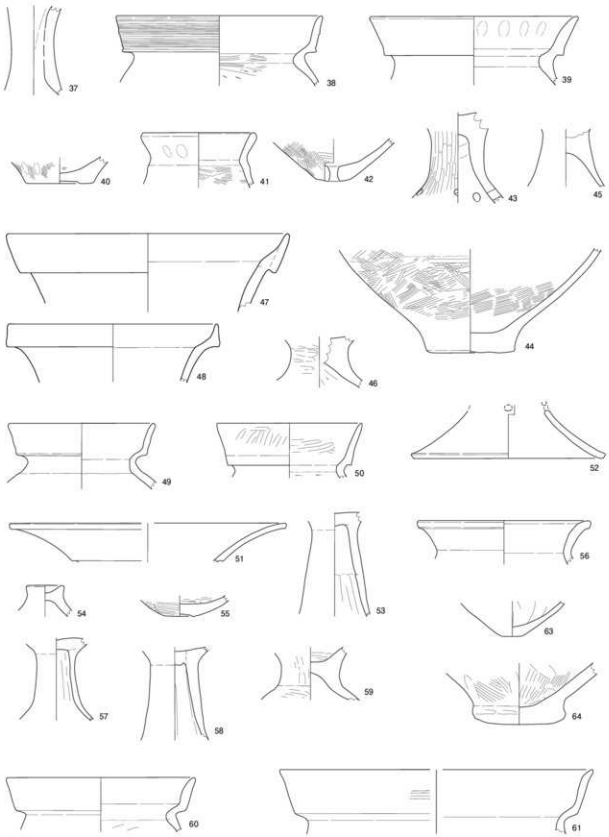
SD01 南アゼ
1　（盛土）2.5Y5/3 にぶい黄色シルト
2　10YR3/3 暗褐色土
3　10YR3/4 暗褐色土（10YR4/1 褐灰色土ブロック１～ 2cm 大含む）
4　10YR2/3 黒褐色土（炭化物粒含む）
5　10YR3/3 暗褐色土（10YR2/3 黒褐色土ブロック３～ 5cm 大、
　10YR4/4 褐色土ブロック１～ 2cm 大、
　2.5Y5/2 暗灰黄色シルトブロック３～ 5cm 大含む）
6　10YR3/2 黒褐色土
7　10YR4/2 灰黄褐色土
8　10YR3/3 暗褐色土（2 層と同質　砂多く含む）
9　10YR3/1 黒褐色粘質土
10 10YR4/2 灰黄褐色土
11 2.5Y3/2 黒褐色砂質土（粗砂多く含む
　2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック２～ 5cm 大含む）
12 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土
13 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土
14 2.5Y6/2 灰黄色砂質土（2.5Y3/2 黒褐色土ブロック含む）
15 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土
16 2.5Y5/1 黄灰色粘質土（粗砂縞状に入る）
17 10YR4/2 灰黄褐色粘質土
18 2.5Y5/1 褐灰色粘質土（粗砂含む　鉄分沈着）
19 2.5Y6/2 灰黄色砂質土（しまりなし）
20 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土（粗砂多く含む）
21 10YR5/1 褐灰色土
22 10YR4/1 褐灰色土（しまり少ない　31 層のブロック２～ 3cm 大多く含む）
23 2.5Y6/2 灰黄色シルト（31 層と同質　しまり少ない）
24 10YR4/2 暗灰黄色土（2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック３～ 7cm 大多く含む）
25 2.5Y5/1 黄灰粘質土（2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック３～ 7cm 大多く含む）
26 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
27 2.5Y4/1 黄灰色粘質土（粗砂縞状に入る）
28 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土（粗砂縞状に入る）
29 2.5Y5/3 黄褐色粘質土（粗砂多く含む）
30 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂（植物腐食土縞状に入る）
31 2.5Y6/2 灰黄色シルト（2.5Y3/2 黒褐色土筋状（鳥の足状）に入る　地山質）
32 2.5Y6/2 灰黄色シルト（地山）
33 2.5Y6/1 黄灰色シルト（粗砂含む）
34 5Y5/2 灰オリーブ色砂（植物腐食土縞状に入る）
35 2.5Y6/2 黄灰色シルト（粗砂含む　2.5Y3/2 黒褐色土５～ 10cm ブロック含む
　地山）
36 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（粗砂多く含む　2.5Y3/2 黒褐色土縞状に入る　地山）
37 2.5Y5/1 黄灰色粗砂（2.5Y8/2 灰白色粘土粒 2cm 大少し含む　地山）
38 2.5GY6/1 灰色シルト～粘土



第11図 SD1出土土器（縮尺1/3）

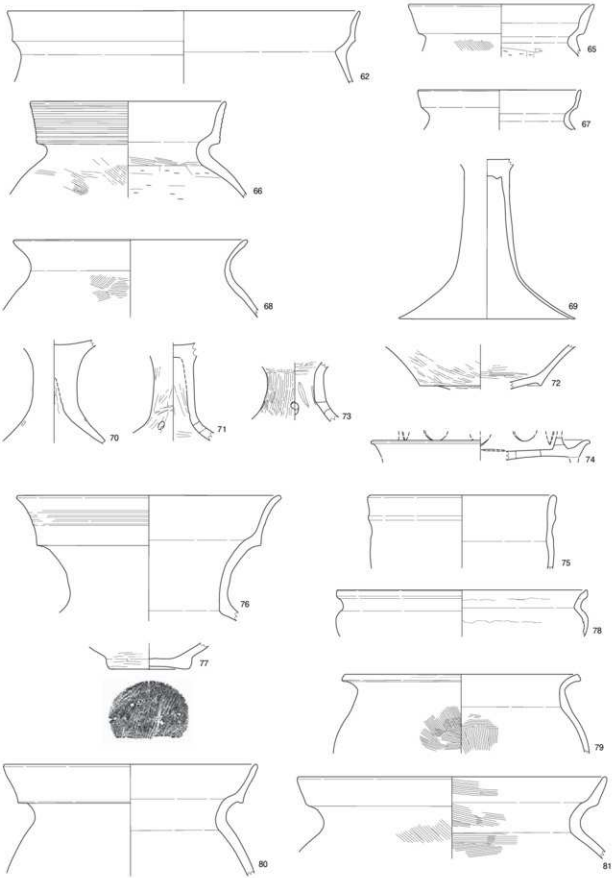


第 12 図　SD1 出土土器（縮尺 1/3）



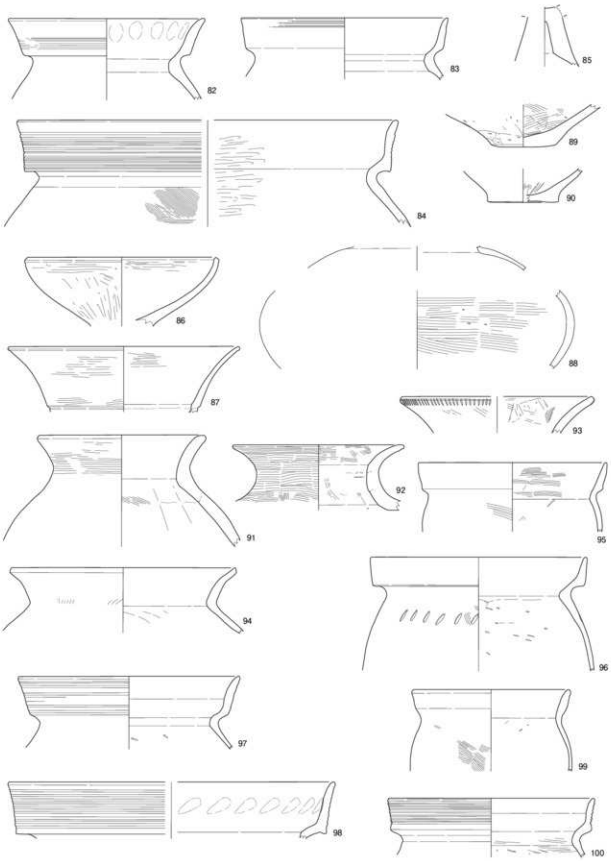
第13図 SD1出土土器（縮尺1/3）

0 (1:3) 10cm



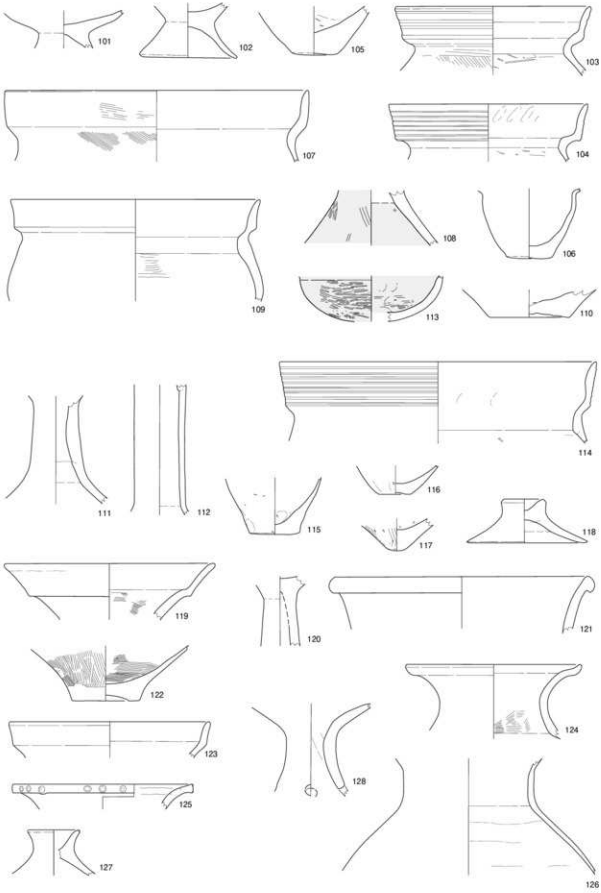
第 14 図　SD1 出土土器（縮尺 1/3）

0　(1:3)　10cm

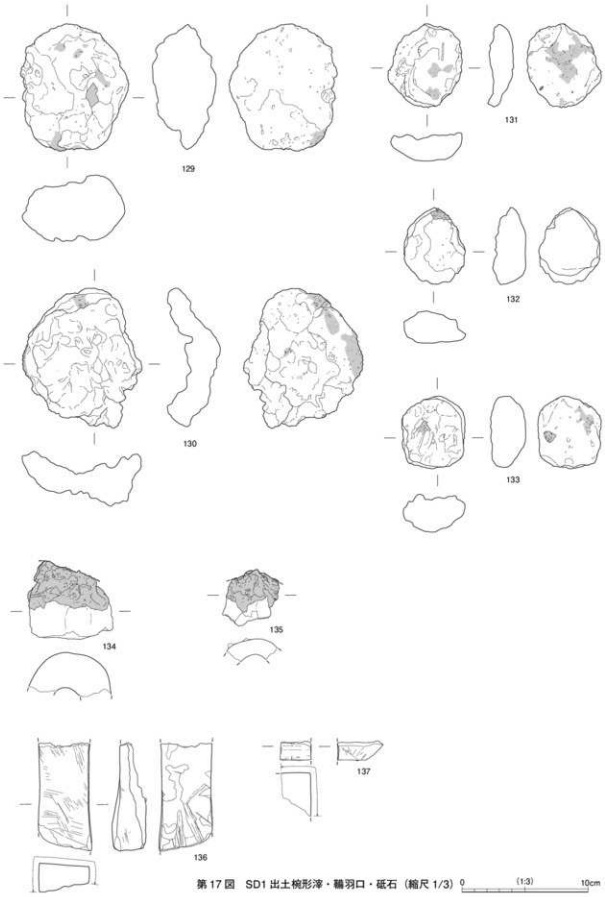


第15図 SD1出土土器（縮尺 1/3）

0 (1:3) 10cm



第16図　SD1出土土器（縮尺1/3）



第17図 SD1出土椀形滓・鞴羽口・砥石（縮尺1/3）

第２表　SD1出土土器観察表

個体番号	遺物番号	出土地点	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調		胎土		遺存度	備考
								外面	内面	砂粒	焼成		
1	0003	上層	珠洲焼	甕	—	—	(17.0)	5Y6/1 灰	5Y4/1 灰	礫微 粗砂少	体部小片		
2	0065	中	黒胴色土 他	珠洲焼	鉢	(18.7)	(6.9)	N5/ 灰	N5/ 灰	粗砂わずか	口縁1/12以下	内面ヘラ描きあり	
3	0002	北	黒胴色土 下層	珠洲焼	甕	—	—	(6.1)	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	粗砂 細砂並	小片	
4	0001	北	黒胴色土 他	珠洲焼	鉢	—	(13.5)	(4.7)	N6/ 灰	N5/ 灰	粗砂少	底部3/12	
5	0086	北	黒胴色土 下層	土師器	皿	(8.8)	—	1.2	10YR2/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	礫少 細砂少 赤色粒少	口縁2/12	内外面摩耗
6	0051	南	南壕間部遺構	土師器	皿	(9.6)	(7.2)	1.2	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	礫少 細砂少 赤色粒微	口縁2/12 底部1/12	
7	0097	北	黒胴色土 下層	土師器	皿	(10.0)	—	(2.1)	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	細砂少 赤色粒少	口縁1/12	
8	0031	北	黒胴色土 下層～灰色粗砂	土師器	鍋	—	(8.8)	(3.0)	10YR4/1 褐灰	10YR7/3 にぶい黄橙	粗砂 細砂 赤色粒少	底部9/12	底部外面赤切痕
9	0072	北	北アゼ5層以下	土師器	有台椀	—	(6.3)	(2.0)	10YR3/1 黒褐	10YR6/3 にぶい黄橙	礫少 粗砂少	底部10/12	内黒
10	0118	北	黒胴色土	須恵器	甕(底部)	—	(6.4)	(1.9)	10YR6/1 褐灰	10YR6/1 褐灰	礫少 粗砂多 細砂多	底部3/12	
11	0005	北	黒胴色土 他	須恵器	無台椀	(12.0)	(8.0)	3.05	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	粗砂少	口縁1/12以下 底部3/12	
12	0008	北	黒胴色土下層～灰色粗砂	須恵器	無台椀	13.5	10.6	3.25	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	礫多 粗砂並 細砂並	口縁6/12 底部11/12	
13	0083	中	黒胴色土	須恵器	蓋	—	つまみ径(2.0)	(1.2)	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	粗砂少	つまみ部10/12	
14	0007	北	黒胴色土	須恵器	蓋	(13.0)	—	(1.7)	10Y6/1 灰	10Y6/1 灰	粗砂 細砂並	口縁小片	
15	0004	北	黒胴色土下層	須恵器	有台椀	—	7.4	(2.4)	10YR5/1 褐灰	10YR6/1 褐灰	礫少 粗砂少 細砂多	底部11/12	外面全体に降灰
16	0006	北	黒胴色土	須恵器	有台椀	—	(6.1)	(3.95)	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	礫並 粗砂並 細砂並	底部3/12	
17	0011	中	灰色粗砂おちこみ	須恵器	蓋	—	—	(3.2)	N6/ 灰	N4/ 灰	細砂並 黒色粒	胴部6/12	外面全体に自然釉 焼き.ぶく(有り)
18	0091	北	黒胴色土下層	縄文	深鉢	—	—	(2.8)	10YR5/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	礫少 粗砂多	小片	
19	0010	北	灰色粗砂	縄文	深鉢	—	—	(5.4)	10YR5/3 にぶい黄橙	10YR5/2 にぶい黄橙	礫少 粗砂 細砂多	体部小片	
20	0009	北	灰色粗砂	縄文	深鉢か	—	—	(3.6)	10YR4/2 灰黄褐	2.5YR3/2 黒褐	粗砂並 細砂多	口縁小片	瓜痕文
21	0015	北	東岸上層	弥生	壺	(14.7)	—	(9.0)	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	礫少 粗砂並	口縁1/12	
22	0127	中	南アゼ上層	弥生	壺か	(8.7)	—	(3.1)	2.5YR4/6 赤褐	2.5YR4/6 赤褐	砂粒含まず	口縁2/12	内外面赤彩
23	0017	中	黒胴色土	弥生	器台	—	—	(6.4)	5YR2/6 橙	2.5YR6/6 橙	礫少 粗砂多 赤色粒	基部12/12	
24	0018	中	黒胴色土 他	弥生	甕	(17.5)	—	(9.3)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	礫並 粗砂並	口縁2/12	
25	0084	中	黒胴色土 他	弥生	甕	(18.6)	—	(5.1)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐	粗砂多 赤色粒	口縁4/12	外面ススけ著
26	0019	中	黒胴色土 他	弥生	壺	—	—	(12.4)	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	粗砂 細砂並	頸部1/12	外面全体 内面一部赤彩
27	0060	南	中層	弥生	高杯	—	(18.6)	(3.85)	10YR8/2 灰白	10R5/6 赤	細砂少	脚部小片	外面赤彩
28	0062	南	中層	弥生	高杯	—	—	(3.4)	5YR6/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙	細砂少 赤色粒	小片	
29	0059	南	中層	弥生	高杯か器台	—	(10.1)	(3.4)	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	粗砂少	脚部3/12	
30	0074	南	中層 他	弥生	台付壺	—	—	(6.8)	10YR7/3 にぶい黄橙	10R6/4 にぶい赤橙	粗砂 細砂並 赤色粒	小片	外面赤彩
31	0073	南	中層	弥生	壺	(15.4)	—	(3.65)	10R5/6 赤（赤彩）2.5YR7/3 にぶい橙	10R5/6 赤	礫多 粗砂多	口縁小片	内外面赤彩
32	0116	南	中層	弥生	甕	(12.9)	—	(2.6)	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	粗砂少	口縁1/12	外面ススけ著
33	0117	南	中層	弥生	甕	(16.8)	—	(6.7)	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/8 橙	礫多 粗砂並 赤色粒	口縁2/12	
34	0088	中	中層	弥生	甕	(30.0)	—	(5.4)	10YR8/3 浅黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	礫多 粗砂多	口縁1/12	頸円線10条
35	0119	南	中層	弥生	甕	(30.3)	—	(4.9)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	粗砂並 赤色粒	口縁小片	外面ススけ著 頸円線8条
36	0012	南	中層 他	弥生	甕	(31.2)	—	(10.2)	10YR6/4 浅黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	礫並 粗砂多	口縁4/12	外面ススけ著 頸円線6条
37	0053	中	東岸中～下層	弥生	甕	—	—	(7.1)	5YR6/1 褐灰～5YR7/4 にぶい橙	5YR7/4 にぶい橙	粗砂多 細砂多 赤色粒少	小片	
38	0054	中	東岸中～下層	弥生	甕	(16.2)	—	(5.6)	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐	粗砂 細砂多	口縁小片	頸円線10条
39	0092	中	東岸中～下層	弥生	甕	(16.2)	—	(5.5)	10YR8/2 灰白	2.5YR5/1 黄灰、2.5Y7/1 灰白	礫多 粗砂多 赤色粒微	口縁2/12	
40	0120	中	東岸中～下層	弥生	甕	—	5.4	(2.1)	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	粗砂並 細砂多	底部3/12	
41	0082	中	東岸中～下層	弥生	小甕	(8.8)	—	(4.4)	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白	礫少 粗砂多 赤色粒少	口縁2/12	
42	0058	中	中～下層	弥生	甕	—	27	(34.8)	7.5YR7/3 にぶい橙	2.5YR7/3 にぶい橙	礫並 粗砂多	底部12/12 完形	孔あり
43	0021	南	中～下層	弥生	高杯	—	—	(7.2)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	粗砂少 細砂並 赤色粒	小片	孔ラッ所か
44	0020	南	中～下層 他	弥生	甕	—	7.0	(8.3)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	礫少 粗砂多 赤色粒少	底部6/12	
45	0079	南	南アゼ中～下層	弥生	高杯か器台	—	—	(4.6)	7.5YR7/3 にぶい黄橙	10YR5/1 褐灰	粗砂わずか 赤色粒	小片	
46	0110	南	南アゼ中～下層	弥生	高杯か器台	—	—	(4.1)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	粗砂多 細砂並	小片	
47	0039	南	南アゼ中～下層	弥生	壺	(22.1)	—	(6.3)	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	礫少 粗砂少 赤色粒	口縁2/12	
48	0041	南	南アゼ中～下層	弥生	壺か	(16.4)	—	(4.6)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	粗砂並 細砂少 赤色粒多	口縁1/12	内外面剥離著しい
49	0038	南	南アゼ中～下層	弥生	甕か壺	(11.4)	—	(5.3)	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	粗砂少	口縁6/12	
50	0040	南	南アゼ中～下層	弥生	壺	(11.4)	—	(4.2)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	礫少 粗砂少	口縁9/12	
51	0124	北	黒胴色土下層	弥生	高杯	(21.8)	—	(3.1)	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	礫少 粗砂少 細砂並	口縁1/12	内外面摩耗
52	0087	北	黒胴色土下層	弥生	器台か高杯	—	(15.0)	(3.8)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	粗砂並 細砂並	底部3/12	内外面摩耗
53	0099	北	黒胴色土下層(灰黒色土)	弥生	高杯	—	—	(8.3)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	細砂並 赤色粒少	脚部2/12	内外面摩耗
54	0098	北	黒胴色土下層(灰黒色土)	弥生	壺	—	—	(2.5)	2.5YR6/3 淡黄	2.5YR6/3 淡黄	礫少 粗砂並 細砂並	つまみ部6/12	内外面摩耗 つまみ径28
55	0063	北	黒胴色土下層～灰色粗砂	弥生	甕	—	24	(1.7)	10YR7/3 にぶい黄橙	5Y2/1 黒	粗砂 細砂並 赤色粒少	底部12/12	
56	0106	北	黒胴色土下層～灰色粗砂	弥生	甕	(13.6)	—	(3.5)	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	礫少 粗砂 細砂並	口縁5/12	内外面摩耗
57	0064	北	黒色土下層～灰色粗砂	弥生	高杯	—	—	(6.6)	5YR6/6 橙	5YR6/8 橙	粗砂多 細砂並	脚部12/12	内外面摩耗
58	0043	中	北アゼ6層	弥生	高杯	—	—	(7.4)	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	赤色粒	脚部5/12	
59	0111	中	北アゼ7層	弥生	高杯か器台	—	—	(4.3)	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	粗砂少	脚部小片	内外面摩耗
60	0044	中	北アゼ8層	弥生	甕	(14.8)	—	(4.3)	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	粗砂少	口縁2/12	
61	0125	中	北アゼ9層	弥生	甕	(24.8)	—	(5.1)	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	礫少 粗砂並	口縁2/12	
62	0126	中	北アゼ10層	弥生	甕	(27.8)	—	(5.7)	2.5YR7/4 にぶい橙	2.5YR7/4 にぶい橙	礫並 粗砂多	口縁2/12	
63	0046	中	北アゼ11層	弥生	甕	—	1.6	(2.8)	2.5YR5/4 にぶい赤褐	5YR6/4 にぶい橙	粗砂並 細砂並	底部12/12	外面ススけ著
64	0042	中	北アゼ12層	弥生	壺か	—	7.4	(4.9)	10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	礫多 粗砂多	底部11/12	
65	0107	中	下層	弥生	甕	(15.9)	—	(4.5)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	礫少 粗砂多	口縁1/12	
66	0035	中	下層 他	弥生	甕	(15.4)	—	(7.7)	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	礫少 粗砂多 赤色粒少	口縁2/12	外面ススけ著

個体番号	資料管理番号	地区	出土地点	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調		胎土		遺存度	備考
67	0034	中	下層褐灰シルト 他	弥生	甕	(12.8)	—	(3.2)	7.5YR6/1 褐灰	7.5YR6/1 褐灰 7.5YR8/4 浅黄橙	粗砂少		口縁6/12	
68	0070	中	下層褐灰シルト 他	弥生	甕	(18.4)	—	(6.2)	5YR7/6 橙	5YR8/6 橙	粗砂 雲母多 赤色粒少		口縁2/12	内外面摩耗 調整
69	0033	中	灰褐色粘質土	弥生	高杯	—	(14.0)	(12.7)	5YR5/4 にぶい赤褐	2.5Y5/2 暗灰黄	雲少 粗砂多		底部2/12	
70	0025	南	下層	弥生	甕	—	—	(8.3)	2.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	粗砂微 赤色粒		小片	
73	0022	南	下層	弥生	高杯	—	—	(7.8)	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	粗砂多 赤色粒 雲母		小片	孔36所
72	0061	南	下層 他	弥生	高杯	—	—	(13.5)	2.5YR6/3 浅黄	2.5YR6/3 浅黄	粗砂多 赤色粒		小片	
73	0122	南	下層	弥生	器台	—	—	(4.7)	2.5YR6/2 灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	粗砂少		小片	外面一部スス付着 孔40所
74	0050	南	下層	弥生	鉢	—	—	(1.9)	2.5YR6/3 浅黄	2.5YR6/3 浅黄	粗砂少 赤色粒		小片	底部孔 体部孔120所
75	0121	南	下層	弥生	壺	(14.5)	—	(5.8)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	雲多 粗砂多		口縁1/12	外面スス付着
76	0024	南	下層 他	弥生	壺	(20.7)	—	(10.0)	5YR7/3 にぶい橙	5YR7/4 にぶい橙	粗砂多 赤色粒		口縁5/12	全体に摩耗 内面調整
77	0048	南	南アゼ下層	弥生	壺	—	—	(6.2)	10YR5/1 褐灰	10YR5/1 褐灰	雲少 粗砂多 赤色粒		底部7/12	
78	0103	南	下層	弥生	鉢	(19.7)	—	(3.7)	10R5/1～2.5YR5/3 赤灰～にぶい赤褐	2.5YR5/3 にぶい赤褐	粗砂少 赤色粒		口縁1/12	
79	0036	南	下層	弥生	甕	(18.4)	—	(6.3)	2.5YR6/3 浅黄	10YR3/1 黒褐	雲多 粗砂多		口縁1/12	外面スス付着
80	0075	南	下層	弥生	甕	(20.0)	—	(8.9)	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙	雲 粗砂多		口縁1/12	外面スス付着
81	0076	南	下層	弥生	甕	(24.3)	—	(6.5)	2.5YR4/4 にぶい赤褐	7.5YR7/3 にぶい橙	雲 粗砂多 赤色粒		口縁1/12	
82	0077	南	下層	弥生	甕	(15.4)	—	(6.5)	2.5YR6/2 灰白	10YR6/2 灰黄褐	雲多 粗砂多		口縁2/12	内外面摩耗している
83	0096	南	下層	弥生	甕	(16.2)	—	(4.9)	7.5YR7/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	雲 粗砂多 赤色粒		口縁2/12	
84	0056	南	下層 他	弥生	甕	(30.6)	—	(8.5)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	雲少 粗砂 細砂多		口縁4/12	外面一部スス付着
85	0112	北	灰色粗砂	弥生	高杯	—	—	(4.75)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	雲少 粗砂 細砂多		脚部2/12	
86	0032	北	灰色粗砂 他	弥生	高杯	(14.9)	—	(5.5)	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	粗砂多		口縁5/12	内外面口縁部にスス付着
87	0066	北	灰色粗砂 他	弥生	高杯	(18.2)	—	(5.2)	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	粗砂 細砂少		口縁1/12	
88	0089	北	灰色粗砂	弥生	壺	—	—	(9.7)	2.5Y4/1 黄灰	7.5YR7/4 にぶい橙	粗砂多 細砂若 他土塊多		体部3/12	
89	0065	北	灰色粗砂	弥生	壺	—	5.0	(3.4)	10YR7/1 灰白	10YR7/2 にぶい黄橙	雲少 粗砂若 細砂多		底部10/12	底部穿孔 黒斑
90	0113	北	灰色粗砂 他	弥生	壺	—	(5.6)	(2.7)	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白	粗砂少 細砂若		底部10/12	
91	0022	北	灰色粗砂 他	弥生	壺	(13.2)	—	(8.9)	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	雲少 粗砂 細砂多 赤色粒少		口縁2/12	内外面摩耗
92	0023	北	東岸下層(灰色粗砂)	弥生	壺	(15.6)	—	(5.2)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	粗砂 細砂少		口縁3/12	口縁部調整
93	0123	北	灰色粗砂	弥生	壺	(15.0)	—	(2.9)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	雲少 粗砂 細砂若		口縁2/12	
94	0090	北	灰色粗砂	弥生	甕	(17.8)	—	(5.2)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	雲若 粗砂多 細砂若 他土塊多		口縁2/12	
95	0115	北	灰色粗砂	弥生	甕	(14.8)	—	(5.5)	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白	雲多 粗砂多 細砂若 他土塊多		口縁1/12	
96	0067	北	灰色粗砂	弥生	甕	(17.0)	—	(9.1)	7.5R7/3 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	雲若 粗砂多 細砂若 他土塊多		口縁1/12	
97	0104	北	灰色粗砂	弥生	甕	(17.5)	—	(5.8)	7.5R6/2 灰白	10YR8/2 灰白	雲少 粗砂多 細砂若 他土塊多		口縁4/12	擬円圏9条
98	0114	北	灰色粗砂	弥生	甕	(25.8)	—	(4.5)	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	雲少 粗砂多 細砂若 他土塊多		口縁1/12以下	擬円圏9条
99	0105	北	東岸灰色粗砂 他	弥生	甕	(12.2)	—	(6.5)	7.5R7/3 にぶい橙	7.5R6/2 灰褐	雲少 粗砂多 細砂若 他土塊多		口縁2/12	外面スス付着
100	0016	北	東岸灰色粗砂 他	弥生	甕	(16.2)	—	(4.7)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	粗砂 細砂多		口縁4/12	外面一部スス付着 擬円圏8条
101	0029	中	灰色粗砂おちこみ	弥生	器台か高杯	—	—	(3.0)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	粗砂 細砂多		小片	内外面摩耗
102	0030	中	灰色粗砂おちこみ	弥生	台脚	—	7.6	(4.4)	5YR6/4 にぶい橙～10YR6/4 にぶい黄橙	2.5YR6/4 にぶい橙	雲少 粗砂 細砂多 赤色粒少		底部1/12	内外面摩耗
103	0068	中	灰色粗砂おちこみ	弥生	甕	—	—	(4.4)	7.5YR7/2 にぶい黄橙～赤褐	10R5/4 赤褐（赤彩）	粗砂多		底部5/12	内外面赤彩
109	0045	中	北アゼ南部	弥生	壺	(19.6)	—	(8.1)	10YR4/1 褐灰	5YR6/4 にぶい橙	雲 粗砂多 赤色粒		口縁1/12	
110	0108	南	層掘除	弥生	甕	—	(6.4)	(2.3)	10YR8/3 浅黄橙	2.5Y7/3 浅黄	雲多 粗砂多		底部6/12	
111	0057	南		弥生	器台	—	—	(8.6)	7.5YR7/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	粗砂 細砂若 他土塊多		脚部2/12	
112	0078	南		弥生	高杯	—	—	(10.4)	2.5R6/8 橙	2.5R6/8 橙	粗砂多		脚部2/12	
113	0102	南		弥生	瓦	—	—	(3.6)	10R6/6赤橙(赤彩)	10R6/6赤橙(赤彩)	雲少 粗砂並 細砂並			内外面赤彩
114	0081	南		弥生	壺	(25.0)	—	(6.5)	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	雲多 粗砂多 細砂並		口縁1/12以下	口縁付近一部にスス付着 擬円圏8条
115	0013	南		弥生	壺	—	4.0	(4.5)	10YR8/2 灰白	7.5YR7/4 にぶい橙	白色小粗砂多 細砂並		底部2/12	
116	0080	南		弥生	壺	—	2.5	(2.3)	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白	雲多 粗砂並 細砂並		底部2/12	
117	0101	南		弥生	鉢	—	1.4	(2.6)	10YR8/2 灰白	10YR7/2 にぶい黄橙	雲多 粗砂多 細砂並 他土塊多		底部2/12	
118	0014	南		弥生	蓋	(4.8)	—	3.5	10YR8/3 浅黄橙 2.5Y5/1 黄灰	10YR8/4 浅黄橙	粗砂多 細砂並		口縁6/12 つまみ1/12	つまみ孔(31)
119	0049	南	南アゼ南深掘	弥生	器台	(16.5)	—	(4.5)	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	粗砂微		口縁1/12	
120	0047	南	南アゼ南深掘	弥生	高杯	—	—	(5.6)	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	粗砂多		脚部小片	
121	0037	南	南アゼ南深掘	弥生	壺か	(20.0)	—	(4.6)	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	雲少 粗砂並 赤色粒		口縁2/12	
122	0036	南	南壁際深掘	弥生	甕	—	5.3	(4.4)	2.5YR5/1 黄灰	2.5Y5/1 黒褐～10YR8/4 浅黄橙	雲少 粗砂多		底部2/12	外面スス付着
123	0109	南	南壁際深掘	弥生	甕か壺	(15.8)	—	(2.9)	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	雲 粗砂多		口縁2/12	
124	0094	南	南壁際深掘	弥生	壺	(13.6)	—	(6.0)	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR5/3 にぶい橙	雲多 粗砂多		口縁2/12	
125	0095	南	南壁際深掘	弥生	壺	(14.2)	—	(2.0)	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	粗砂微 細砂少		口縁1/12	浮 文3?組（8か所か）内面粘土接痕
126	0052	南	南壁	弥生	壺	—	—	(9.0)	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	雲多 粗砂多		—	内面粘土接痕
127	0100	南	南西側方付近	弥生	蓋	—	—	(3.9)	2.5YR6/6 にぶい橙	2.5YR6/6 にぶい橙	粗砂 細砂少		〈びれ部5/12	つまみ孔(20)
128	0071	中	分銅押反土	弥生	器台	—	—	(6.4)	7.5YR6/6 浅黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	雲少 粗砂並 赤色粒		—	内面調整 孔4か所か

第3表　SD1鉄滓観察表

	資料管理番号	地区	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量[g]
129	0131	北	北アゼ5～6層	椀形鉄滓	10.15	7.55	5.4	441.8
130	0132	北	東岸灰褐色土	椀形鉄滓	11.1	9.45	4.5	361.3
131	0133	北	黒褐色土下層～青灰砂層	椀形鉄滓	6.65	5.9	2.5	60.4
132	0134	北		椀形鉄滓	7.1	4.8	2.6	79.0
133	0135	南	南アゼ中層	椀形鉄滓	5.75	5.0	3.0	128.5

第4表　SD1輪羽口観察表

	資料管理番号	地区	出土地点	器種	外径(cm)	内径(cm)	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	重量[g]	遺存度
134	0136	中	青灰砂おちこみ	輪の羽口	推定(6.5)	推定(2.3)	(6.25)	(6.75)	(3.7)	(111.6)	1/12以下
135	0137	北	黒色土下層～青灰砂	輪の羽口	推定(5.4)	推定(3.0)	(4.45)	(4.5)	(2.2)	(27.8)	1/12以下

第5表　SD1砥石観察表

	資料管理番号	地区	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量[g]
136	0129	北	SD1	砥石	(1.5)	(2.45)	(3.6)	(13.8)
137	0130	北	SD1	砥石	(8.6)	(4.1)	(2.7)	(119.0)

第6表　SD1鉄滓計測表

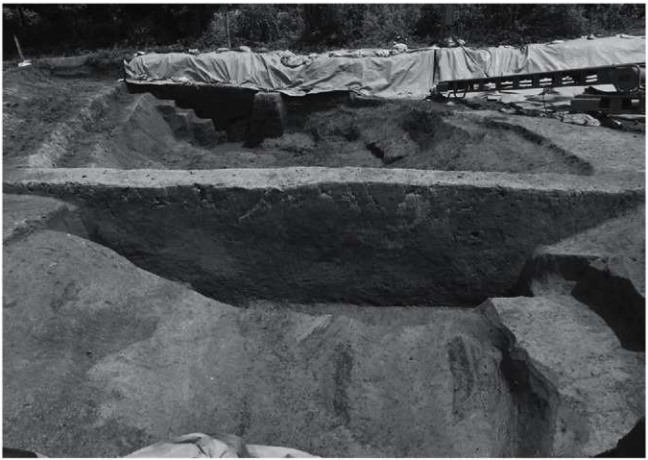
No.	地区	出土地点	重量[g]				計[g]	実測番号	備考
			10cm以上	5-10cm	3-5cm	3cm以下			
1	北		—	—	—	10	10		
2	北		—	—	—	4.9	4.9		
3	北		—	82.8	—	89	171.8		
4	北		—	—	—	6.7	6.7		
5	北		178.1	1308.4	1030.1	590.1	3106.7	132	椀形滓1　写真:2③
6	北		—	974.8	833.3	627.2	2435.3		椀形滓1　写真:④
7	北		—	235.7	21.1	138.4	395.2		椀形滓1
8	北	黒褐色土	—	457	348.9	207.5	1013.4		椀形滓1か*
9	北	黒褐色土	439.3	716.4	100.4	145.4	1401.5		椀形滓3　写真:①
10	北	黒褐色土下層	—	463.3	229	205.6	897.9		椀形滓1
11	北	黒褐色土下層	—	195.6	155.3	190.7	541.6		
12	北	黒褐色土下層	—	—	17.4	—	17.4		
13	北	黒褐色土下層,灰褐色土	—	—	—	3	3		
14	北	黒褐色土下層～青灰砂層	—	61.5	—	—	61.5	131	椀形滓
15	北	東岸灰褐色土	362.5	—	—	—	362.5	130	椀形滓
16	北	青灰砂	—	—	—	7.6	7.6		
17	北	北アゼ5, 6層	442.7	—	—	—	442.7	129	椀形滓1
18	北	北アゼ6層	—	—	—	4.4	4.4		
19	北	北壁流板	—	77.3	—	7.8	85.1		
20	北	北アゼ2, 4層	332	—	58.6	—	390.6		
21	北	カクラン含む	—	1088.7	714.2	515.7	2318.6		
22	中		315.6	73.7	351.9	129.1	870.3		椀形滓か1
23	中		250.9	1079.2	387.4	355.1	2072.6		椀形滓か1 椀形滓1
24	中	上層	—	—	—	65.5	65.5		
25	中		—	—	—	64.8	64.8		
26	中	下層	—	—	24.2	—	24.2		
27	中	黒褐色土	—	1282.9	212.5	88.3	1583.7		椀形滓3
28	中	黒褐色土	—	—	—	45.2	45.2		
29	中	黒褐色土	—	240.1	105.3	17.9	363.3		
30	中	橙褐色土層2/3下	—	—	17.3	19.9	37.2		
31	中	下層橙褐色土層2/3下	—	161	36.9	—	197.9		
32	中	(東岸付近)灰褐色粘質土	—	—	50.5	—	50.5		
33	中	(東岸付近)灰褐色土	—	—	12.8	—	12.8		
34	中	黒褐色土 上～下層	—	169.5	97	—	266.5		
35	南		350.9	577.1	61.8	43.3	1033.1		椀形滓1
36	南		—	242.3	85.5	15.2	343		
37	南		—	677.5	—	19.2	696.7		椀形滓1
38	南		—	—	50	3.6	53.6		
39	南	中層	—	—	28.5	—	28.5		
40	南	南アゼ南深掘	—	—	23.1	7.2	30.3		
41	南	南南アゼ南深掘	—	324.5	—	—	324.5		椀形滓1
42	南	南アゼ上層2, 4層	—	—	30.4	—	30.4		
43	南	南アゼ中層	—	313.6	—	—	313.6	133	椀形滓1
44	南	南アゼ中～下層	—	77.6	—	—	77.6		
45	南	上層	—	189.4	114.4	202.9	506.7		
46	南	上層(カクラン含む)	—	—	34.8	34.8	69.6		
47	南	南壁際深掘	—	—	—	7.4	7.4		
48		遺構検出(SD1)	—	264.3	65.7	174.8	504.8		
49		遺構検出(SD1)	1079.6	424.4	115.4	49.7	1669.1		椀形滓2
50		遺構検出(SD1)	—	96.4	33.7	34.4	164.5		
51		表土除去	807.7	—	—	—	807.7		
計			4599.3	11855	5447.4	4132.3	25994		

※No.は取り上げ時の袋の番号

SD1 完掘状況（北から）

SD1 完掘状況（北東から）

北アゼ（北から）



南アゼ（南から）

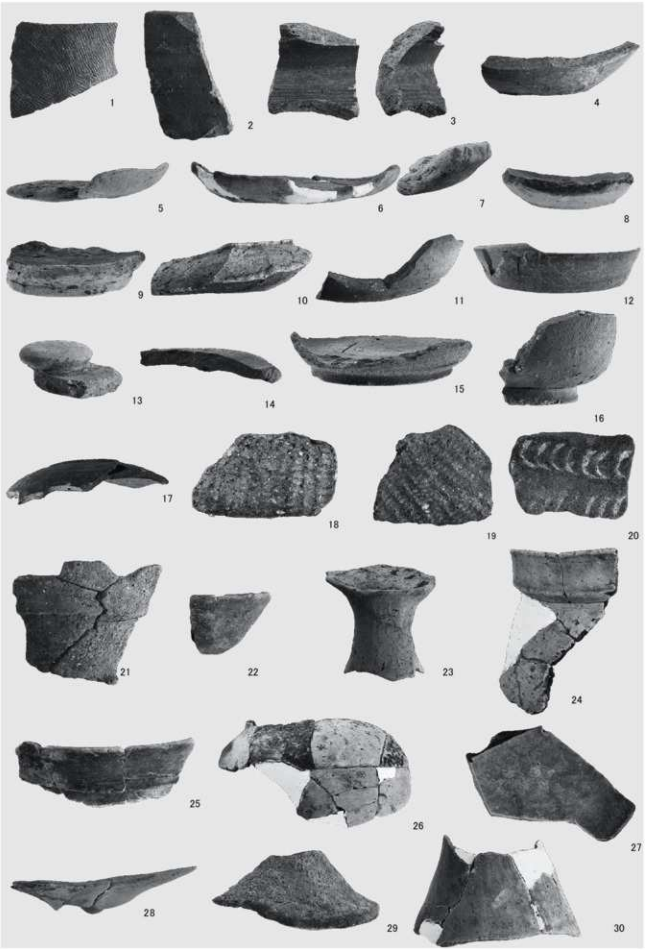
北壁下段土層（南から）

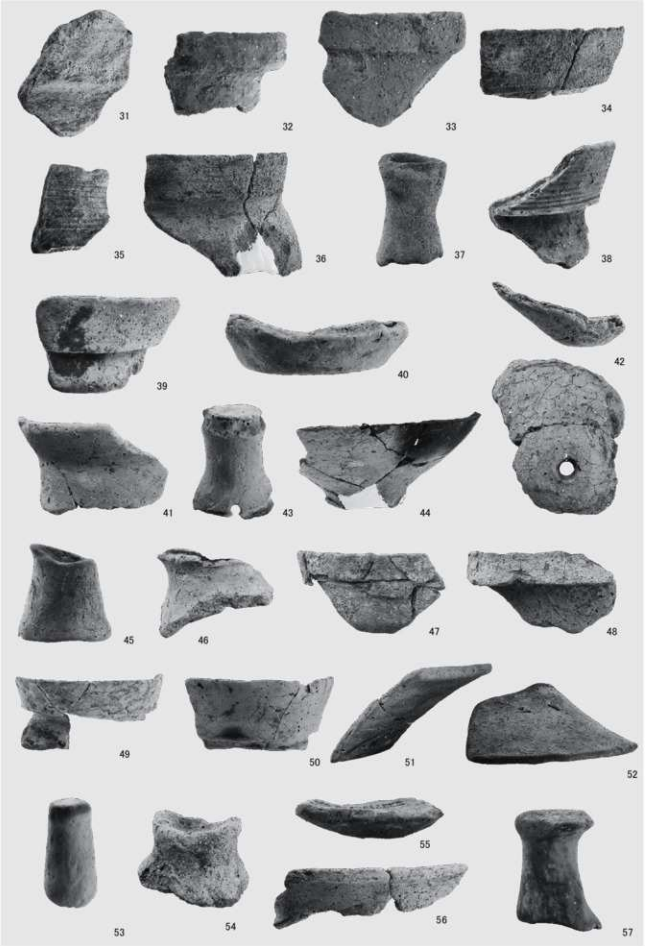
南壁下段土層（北から）

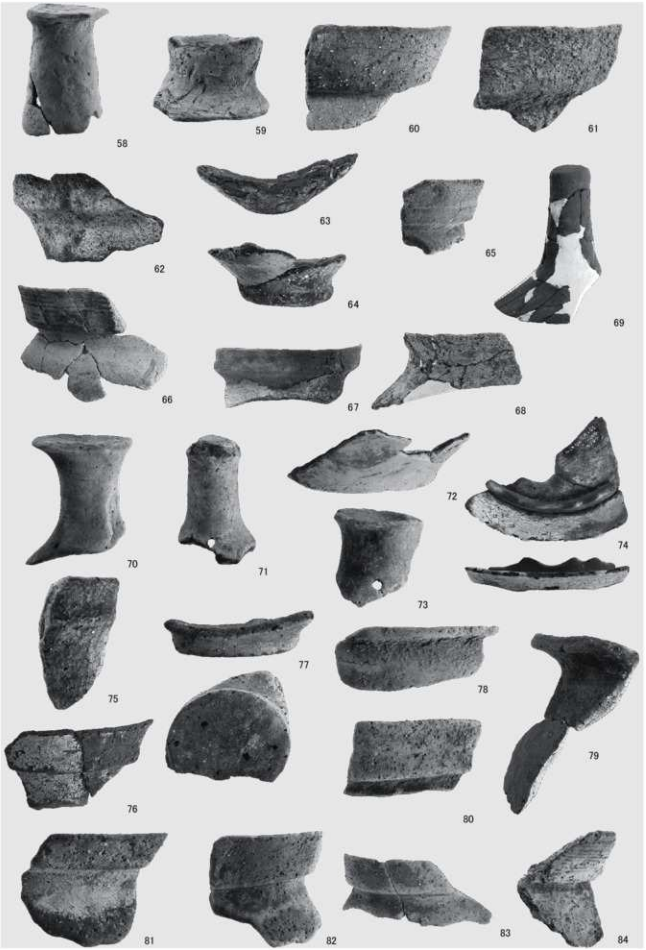
SX1（南から）

土器出土状況（下層）

完掘状況（北西から）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30


31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
42
41
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57


58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

98

96

97

99

100

101

102

103

104

105

106

107

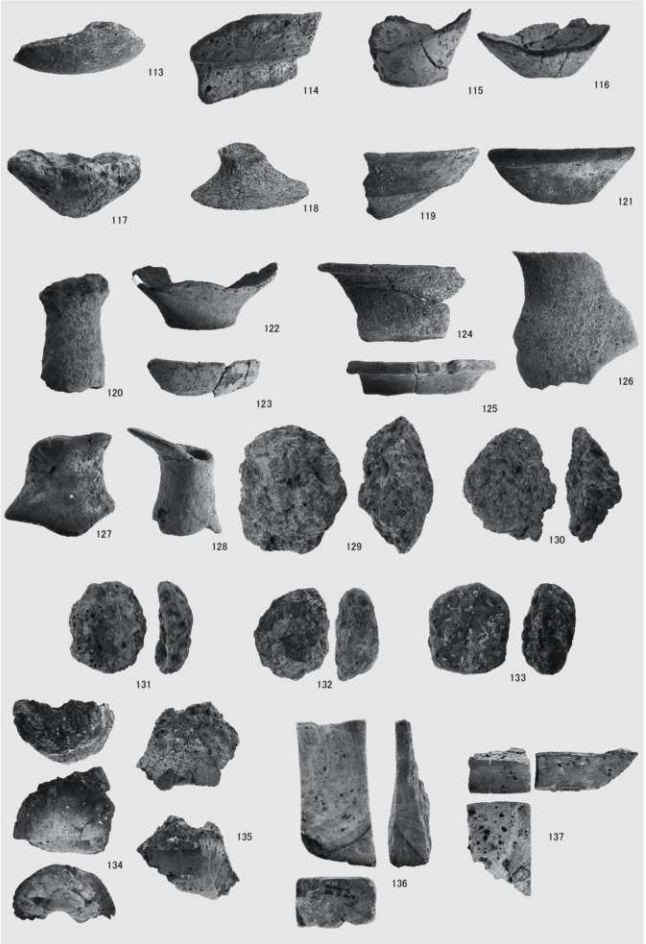
108

109

110

111

112


113
114
115
116
117
118
119
121
120
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137

報告書抄録

ふりがな	つばたまち　かがつめBいせき
書名	津幡町　加賀爪B遺跡
副書名	地方道改築（一）莇谷津幡線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	熊谷葉月
編集機関	公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1　TEL(076)229-4477　FAX(076)229-3731
発行機関	石川県教育委員会・公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター
発行年月日	平成29年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 （新）	東経 （新）	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かがつめ　いせき 加賀爪B遺跡	いしかわけん　かほくぐん 石川県河北郡 つばたまち　かがつめ 津幡町加賀爪	17202	1311900	36度 40分 7秒	136度 44分 46秒	20150522 ～ 20150723	460㎡	記録保存 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
加賀爪B遺跡	集落	弥生時代、 奈良・平安 時代、中世	河道跡	弥生土器、土師器、須恵器、珠洲焼、籾羽口、鉄滓、砥石	

要約	調査区西半で、南北方向の河道跡を検出した。中・下層では、弥生時代後期～終末期の土器が多く、小片で脆いものが大半であることから、上流の集落からの流入と考えられる。河道北半は北下方に急傾斜しており、調査区外の本流への合流部と推定される。上層では、古代、中世の土器が少量出土しており、鉄滓、籾羽口の破片などの存在から、周辺で金属加工が行われていた可能性がある。

津幡町　加賀爪B遺跡

発行日　平成29年3月30日

発行者　石川県教育委員会
〒920-8575　石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話　076-225-1842（文化財課）

公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
〒920-1336　石川県金沢市中戸町18番地1
電話　076-229-4477
E-mail　mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷　ソノダ印刷株式会社